日よ、月よ、風よ　詩篇 148:1-14	2023.10.15 丘の上　NO.710 春日部福音自由教会　山田豊

ハレルヤ詩篇の、後半に入りました。

本篇の区分の仕方は幾通りかあるかもしれませんが、１－６節は天においての賛美、７－１４節は地においての賛美、と分けることができます。もちろんこの二つがバラバラではなく、一つとなって、神を賛美することへの招き、神は賛美されるべき方であると訴えている詩篇です。

前段の、天、いと高き所、というのは、神は至高の存在であることを示しています。主の万軍も、み使いを表す言葉で、人間とは違う天的なものも含め、すべてが神を賛美すべきと歌っています。日や月や、ここには書かれてありませんが、星々など、宇宙にあるあらゆるものに、神を賛美することを勧めています。これらは、神によって造られたものであり、それゆえに自然界、宇宙には秩序があります。6節の「去りゆくことのない定め」とは、不変の自然法則と言ってよいでしょう。

後段は、神に造られた世界にあるあらゆるものが、神を賛美していることを描いています。新聖歌 476～481 にあるように、草や木や、鳥や獣は、造り主である神を賛美しているのです。11 節からは、人間に対して、神を賛美するよう命じています。身分の高い者も低い者も、性別の違いや年齢の違いを超えて、神を賛美するのです。そして 14 節の、イスラエルの子孫たちこそが、聖なる民であり、神の近くにいて神を賛美する者であると歌っています。この個所は文字通り民族としてのイスラエルということではなく、イエスキリストの物語を知っている者としては、このお方によってあがなわれた者が神の民とされている、霊のイスラエルと解釈することができるでしょう。

アッシジのフランシスコは、太陽の賛歌(被造物の賛歌)を歌いました。それはこの詩篇 148 篇が基になっていると言われます。義の太陽にたとえられるイエスキリストをも表す賛歌であると思います。月は、その太陽の光を反射させ、夜にはこうこうと輝いています。日本人の感性では、この月の姿の方に惹かれ、月を詠んだり、満月をめでる風習があるわけです。そして８節の激しい風と訳されているヘブル語はルアッハ、息とも訳せる言葉です。新約聖書においては、風、息は聖霊を表す表現ともなっています。

神に造られた営みの中で、聖霊によって新しくされ導かれていく、そのことに心を留めて、神を賛美する日々を過ごしてまいりましょう。

引用聖句

創世記 1:7　神は大空を造り、大空の下にある水と大空の上にある水を分けられた。すると、そのようになった。

創世記 1:21　神は、海の巨獣と、水に群がりうごめくすべての生き物を種類ごとに、また翼のあるすべての鳥を種類ごとに創造された。神はそれを良しと見られた。

ヨハネ 3:8　風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

＜アシジの聖フランシスコの祈り＞ 太陽の賛歌、被造物の賛歌

いと高い、全能の、善い主よ、
**　賛美と栄光と誉れと、**
**　すべての祝福は**
**　あなたのものです。**
いと高いお方よ、
**　このすべては、あなただけのものです。**
**　だれも、あなたの御名を**
**　呼ぶにふさわしくありません。**
私の主よ、あなたは称えられますように
**　すべての、あなたの造られたものと共に**
**　太陽は昼であり、**
**　あなたは太陽で**
**　私たちを照らされます。**
太陽は美しく、
**　偉大な光彩を放って輝き、**
**　いと高いお方よ、**
**　あなたの似姿を宿しています。**
私の主よ、あなたは称えられますように
**　姉妹である月と星のために**
**　あなたは、月と星を**
**　天に明るく、貴く、**
**　美しく創られました。**
私の主よ、あなたは称えられますように
**　兄弟である風のために。**
**　また、空気と雲と晴天と**
**　あらゆる天候のために**
**　あなたは、これらによって、**
**　御自分の造られたものを**
**　扶け養われます。**
私の主よ、あなたは称えられますように
**　姉妹である水のために**
**　水は、有益で謙遜、**
**　貴く、純潔です。**
私の主よ、あなたは称えられますように

兄弟である火のために。
あなたは、火で
夜を照らされます。
火は美しく、快活で、
たくましく、力があります。
私の主よ、あなたは称えられますように
私たちの姉妹である
母なる大地のために。
大地は、私たちを養い、治め、
さまざまの実と
色とりどりの草花を生み出します。
私の主よ、あなたは称えられますように
あなたへの愛のゆえに赦し
病いと苦難を
堪え忍ぶ人々のために。
平和な心で堪え忍ぶ人々は、
幸いです。
その人たちは、
いと高いお方よ、あなたから
栄冠を受けるからです。
私の主よ、あなたは称えられますように
私たちの姉妹である
肉体の死のために。
生きている者はだれも、
死から逃れることができません。
大罪のうちに死ぬ者は、
不幸です。
あなたの、いと聖なる御旨のうちにいる人々は、
幸いです。
第二の死が、その人々を
そこなうことは、ないからです。
私の主をほめ、称えなさい。
主に感謝し、
深くへりくだって、主に仕えなさい。

（訳：石井健吾）

アッシジのフランシスコ(1182－1226、列聖年 1228 年 7 月 16 日)
イタリア半島中部ウンブリア地方のアッシジに生まれる。裕福な家庭であったが、「全てをお返しします」として衣服を父に差し出し、家を出たとされる。貧しい人、病の日と共に過ごす決意をして小さき兄弟団を設立。1224 年、キリストと同じ傷を受けた(聖痕)とされ、病の中で息を引き取る。弱い者に寄り添い、花や鳥たちと話した聖人と言われている。